

ミニミニニュース

藤枝学区総合的な学習の時間研修会

瀬戸川沿いの桜が満開に咲き誇り、希望に満ちた令和5年度がスタートしました。子どもたちの希望を実現するべく、3月2日(木)、藤枝中学区小中4校の総合的な学習の時間担当教諭とコミュニティ・スクールディレクターが研修会を持ちました。今年度は藤枝大祭りがあることから、大祭りを通して地域の歴史を体験的に学ぶ有効性が提案されました。また、地域人材のリストアップや、地域には多くの歴史資産があることから、藤枝市が掲げる旧市街地活性化政策を生かした教育の可能性



令和3年度は、「ふるさとの歴史」、令和4年度は、「ふるさとの先達」と題してコラム欄にご紹介しました。本年度は、幅広く様々な方々の言葉や、地域の歴史などの多様な情報発信の場所として、このコラム欄を活用させて頂きたいと考えています。

コラム

ています。地域にお住まいの方々や地域で学び成長過程にある子どもたちにとって、少しでも有益な情報発信の場となるようなコラムにするべく努力を続けていきたいと考えています。本年度も、よろしくお願いたします。

性についても話し合われました。

サポーターズミーティング

3月8日(水)、サポーターズクラブコーディネーター連絡会が開催されました。この会では、各コーディネーターから活動状況の報告や情報交換などをしました。藤枝中学のコーディネーターからは、地域の方と中学生、PTAの協力により、よみがえった中学校の中庭の豊かな自然についての報告がありました。



藤枝中学校中庭

少し早い卒業式

3月13日(月)、藤枝中学校体育館では、壮行会を兼ねた少し早い卒業式が行われました。この日、学級担任から呼名され早めの卒業をしたのは3年生の鈴木由真さん。3月14日の新聞にも取り上げられた通り、サッカーアンダー16女子日本代表に選ばれ、その後の国際大会に出場するために、本当の卒業式に参加出来ませんでした。そこで学校側の粋な計らいで壮行会兼卒業式となりました。「はばたけ!ふるさとの誇りを担う子どもたち」の藤枝中学区のスローガンの具現化の一つとなることを期待した時間でした。



藤枝郷土のお話

3月13日、卒業を間近に控えた藤枝中学3年生を対象に朗読劇と講演会が実施されました。朗読劇のタイトルは「キツネ軟膏」。講演会のタイトルは、「藤枝の伝説・キツネ軟膏」でした。まりー文庫の仲間たちによる朗読劇は、かつて藤枝宿で売られていたキツネ軟膏が生まれた背景を朗読劇を通して分かり易く伝えるものでした。講演会は、藤枝中学の卒業生でもある民俗学者・八木洋行氏による興味深い藤枝の歴史とキツネ軟膏についての解説でした。川にまつわる伝説は、河童が主役となる場合がほとんどであるのに、瀬戸川では、日本で唯一、キツネが主役となっているという話や、瀬戸川の流れが、枝のようにかつて流れていたことが藤枝の名前の由来であることなど、大変興味深いお話をさせて頂きました。また、古代の東海道が身近に残っていることを教えて頂きました。

